

第11回 高津高校100周年寄付金イベント 麻雀大会 成績表 2017. 8. 27(日) 開催場所:メゾンアッシュドゥ

氏名	ハンデ	1回戦			2回戦					3回戦					順位
		卓	点棒	勝点	卓	点棒	勝点	点棒計	勝点計	卓	点棒	勝点	点棒計	勝点計	
牧		A	-1	6	A	0	6	-1	12	A	31	6	30	18	1
大和		D	20	6	A	-14	-3	6	3	B	38	4	44	7	2
中松		B	-3	-1	C	39	6	36	5	B	1	2	37	7	3
榎原		C	51	6	A	0	-1	51	5	A	-2	-1	49	4	4
森口	2	B	-5	0	B	30	6	25	6	A	-10	-2	15	4	5
別所		E	-1	-1	B	-8	-2	-9	-3	C	58	6	49	3	6
水本	2	B	20	8	A	-3	-2	17	6	A	-19	-3	36	3	7
児玉	2	B	-12	-1	C	-14	-2	-26	-3	D	29	6	3	3	8
吉相		A	-3	-1	C	-2	-3	-5	-4	E	80	6	75	2	9
井上		E	22	6	B	-16	-3	6	3	B	-7	-2	-1	1	10
梅村		A	-5	-2	D	37	6	32	4	B	-32	-4	0	0	11
竹田		E	-17	-3	E	21	6	4	3	C	-35	-3	-31	0	12
阪		D	0	-1	B	-6	-1	-6	-2	C	-3	-1	-9	-3	13
和田		C	-17	-2	E	-5	-1	-22	-3	D	-3	-1	-25	-4	14
山田	2	A	-11	-1	C	-4	-1	-15	-2	C	-20	-2	-35	-4	15
田村		C	-13	-1	D	-9	-2	-22	-3	D	-12	-2	-34	-5	16
森田		E	-4	-2	D	-9	-1	-13	-3	D	-14	-3	-27	-6	17
池内		D	-12	-3	E	-6	-2	-18	-5	E	-10	-1	-28	-6	18
村上		C	-21	-3	E	-10	-3	-31	-6	E	-20	-2	-51	-8	19
今川		D	-8	-2	D	-19	-3	-27	-5	E	-50	-3	-77	-8	20

※3回戦勝点太字はA~E卓のトップです

※順位太字は優勝・とび賞・B.B.賞です



高津21期第11回麻雀大会開催しました。（8月27日）

まさに「牧君デー」

女性初の戴冠 持ち越す

見どころは、近走充実の中松君が、悲願の優勝に手が届くのか。はたまた、22期から参戦の強者、阪・榎原君が本領発揮するのか。当然、大本命の大和君が立ちはだかるが、鍵は女性陣である。1回戦、同卓のメンバーを見て、中松君から、泣きが入った。「今日は、もうあかんわ」。水本さん、児玉さん、森口さんの女性陣に囲まれ、気合を削がれた模様。でも、その顔は、まんざらでもなさそうにも見えるから不思議である。この楽しい麻雀を制したのが、意外性の女王・水本さん。中松君は2着と、首の皮一枚繋いだ。

やはり、鍵となったのは、女性陣であった。決勝A卓には、僅差のマルA2勝の牧君、初戦大勝の22期・榎原君に交じり、最早最終A卓が常連となった感のある森口さん、そして意外性の女王・水本さんと、二人の女性が進出してきた。

初の女性優勝に向け、水本さんが、好スタートを切った。森口さんもしぶとく食い下がる。他の卓が、次々と終わっていくなか、決勝A卓が遅々として進まない。重苦しい展開が続く。リーチに対して、打てない。降りる。流れる。これが最終A卓なのかも知れない。なんと、流れに流れて、表ラスで4本積み。リーチ棒が6本。

二役（リャンハン）しばりに突入。牧君が僅差でトップに立っている。この局を制した者が、戴冠をぐっと引き寄せる。

注目のこの局を制したのが、牧君であった。流れを使った牧君が、卓を支配し、そのまま押し切った。3戦連続マルAの完勝であった。優勝、最終卓優勝はもちろん、ウマの連勝複式馬券4-5を、ひとり取り。まさに牧君による牧君のための「牧君デー」であった。

そんななか、私はというと、いいところなく勝負ところで、大物手に打ち続けた。それも、上がりを逃しての打ち込みこみである。象徴的な一局が、吉相君に親のハネ満を打ち込んだ局である。私は、字牌を二つ鳴いて、1・4・7索の一向聴（イーシャンテ）。上家（カミチャ）から4索が出た。「チー」。私は234索で食って、56索を残し4・7索待ちに受けた。対面（トイメン）の吉相君と上家（カミチャ）の村上君が1索を捨てていたからである。残りの枚数を考えると、1索よりも、7索のほうが見た目上は多い。私は、自摸（ツモ）のことしか考えていなかった。

次順、吉相君から、1索を切って「リーチ」が入った。続いて村上君も打1索。456で鳴いて、23を残して1・4索待ちに受けていれば、上がっていた。この時点で私の「放銃（ほうちゃん）」は決定づけられていた。私の打1ピンが、吉相君の親のハネ満に直撃であった。「勘が悪い」。果たしてそうだろうか。まず、上がりを逃した時点で「降り」を選択すべきだし、「上がり」を優先して考えれば、1・4索で受けなくてはいけない。3、7牌は使い勝手がいい牌なので、使われる可能性が高い。吉相君と村上君の川に捨

てられていたということは、不要牌。私一人の自摸（ツモ）の確率は1 / 4だが、1索で上がる確率は3 / 4なのである。また、村上君が4索を捨ててきたことから、次に1索が出てくる可能性も見ておかなければならなかった。

次局、吉相君が親の四暗刻（スーアンコウ）を引き上がった。後ろで見ていた堺井君が、引き上がるような気がしたとの感想を述べていた。手筋の見事さがそんな予感を感じさせたようだ。つくづく、麻雀の難しさと楽しさと奥深さを感じた一局でもあった。

今川連絡先

PCメール ckchp000@sutv.zaq.ne.jp

携帯メール longalive@softbank.ne.jp

電話 090-9704-0435

★メゾンアッシュドゥ(Maison H2)→ [Google ストリートビュー](#)